

不妊外来での POC 検査の有効性の検討

○徐東舜

徐クリニック ART センター

【目的(または背景)】

不妊外来での流産においても POC はその後の不妊治療結果に有用であるか、retrospective に検討した。

【方法】

2011 年から 2022 年までに POC を実施した 298 件を対象とした。

POC は 2011 年からは G バンド分染法、2018 年からは NGS 法で検査した。その後の出産予後の検討として POC 後の不妊治療での治療 12 周期の累積出産率を POC 実施群 vs 未実施群、POC 正常群 vs 異常群それぞれを比較検討した。さらに POC の結果を踏まえての流産防止対策の有効性も検討した。

【結果】

POC の正常率は 23.5%(70/298)、性比は男児 35.7%(25/70)。POC 異常での内訳はトリソミーが 71.5%(163/228)と最も多かった。

次に不妊治療 12 周期での累積出産率を比較する。POC 実施群と未実施群で比較すると 68.4%(142/208) vs 61.1%(269/440)で有意ではないが POC 実施群が高い傾向にあった。

POC 正常群と異常群を比較すると 77.1%(37/48) vs 65.6%(105/160)となり POC 正常群が有意ではないが高い傾向であった。次に POC の結果からの治療結果を検討した。

POC 異常群の中で 21 例に PGT-A を実施し、17 例が正常胚を認め 15 例が出産した。

POC 正常群中の不育検査率は 72.5%(35/48)、検査異常の割合は 54.2%(19/35)、その内アスピリン療法などで出産に至ったものが 63.2%(12/19)であった。

【結論】

不妊外来での流産症例に対して POC 検査を積極的に行う事で出産率の向上が期待できる。